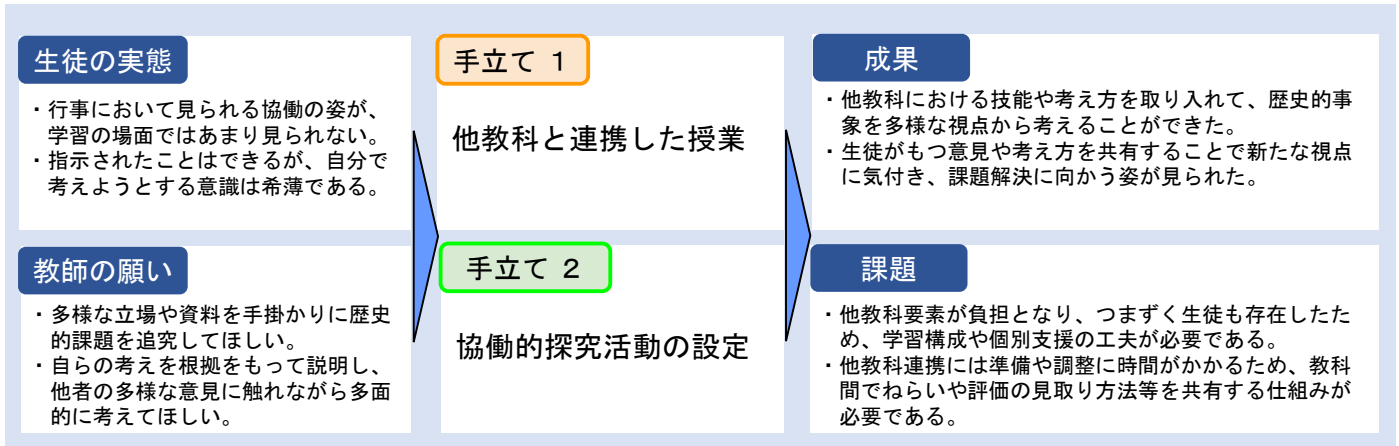


多様な学びを結び付けながら歴史的事象を考察できる生徒の育成 - 他教科連携と協働的探究活動を通して -



特別研修員 地理歴史 細谷 実路(高等学校教諭)



単元名: 歴史総合「経済危機と第二次世界大戦」(第1学年)

本時の問い: 戦間期の国際社会が、再び戦争へと向かったのはなぜだろうか?

手立て 1 他教科と連携した授業 (英語科と連携した授業の例)

① 英文読解内容と既習知識の関連付け

エキスパートA

Step1 ドイツの発言を日本語訳してみよう!

私はフランスが平等という言葉借りた

Step2 その意味や背景をグループで話し合ってみよう!

フランスが平等といふのは、フランスと同じように植民地をもちたいし、(ドイツ語)

I've borrowed the word 'Equality' from the French.

② 英語科教諭による支援



have + 過去分詞が使われているね。これってどういうことなんだろう?

'I'はドイツのことだね。

ということは、ドイツがフランスみたいに、植民地を広げているのかな?

「『平等』という言葉借りた」ってどういうことだろう?



フランス革命で学んだ人権宣言を考えると、『平等』を謳いながら植民地を広げている矛盾を表現しているんだ!

手立て 2 協働的探究活動の設定

① ジグソー法の活用

エキスパート活動: 各国の立場に分かれて資料を分析

エキスパートB

Step1 イタリアの発言や看板の文字を日本語訳してみよう!

もしそこに問題があれば、私は助言を下さなくてはならないかもしれない

Step2 その意味や背景をグループで話し合ってみよう!

もし、植民地拡大を止められず、戦争がおこるといけない...

イタリアは戦争する気だ!

エキスパートD

Step1 フランスの発言を日本語訳してみよう!

私は借金を返済でも早く返した方がいいと思う。再び借金の返済が必要になるとは思えない。

Step2 その意味や背景をグループで話し合ってみよう!

再び大きな戦争が起きるとアメリカの助けが必要になるかもしれない。借金を返済し、状況を有利にするべきだと考えている。

フランスはお金がないみたい。

ジグソー活動: 各国の立場を共有・統合

フランスは戦争のために借金を返そうとするし、それぞれの国で違う理由で動いているんだね。

イタリアの強硬姿勢は極端だと思ったけど、ドイツも『平等』と言いつつ勢力を広げようとしているんだね。

国が違うと考えていることも違うね。こうやって戦争に近づいていったんだ。

② オリジナル「GBQシート」の活用

ジグソー活動後にグループでまとめ、本時の問いへの解答を考える

8班

<p>G: 一次大戦後の国際秩序で評価できること(良かった点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際連盟を設立し、戦争を抑止する仕組みを作った。 ・軍縮や安全保障を目的としたワシントン体制を確立した。 ・それぞれの民族が国家を持つための民族自決の原則を定めた。 	<p>Q: 本時の問い(国際社会はなぜ再び戦争に向かったの?)</p> <p>世界恐慌の発生により、植民地を持っている国と持っていない国に差が生じ、植民地を持っていない国が植民地獲得の為の戦争に走り、国際連盟はそれを止めることができなかった。</p>
<p>B: 一次大戦後の問題点(悪かった点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仏: 借金を返済出来ていなかった。 ・米: 周囲に流されるように行動していた。 ・伊: 力で問題を解決しようとしている。 ・日: 戦争に進んで参加しようとしている。 ・国連: 戦争に向かう国際社会を止められていない。 ・独: 平等という言葉を利用して植民地を待とうとした。 	<p>G(good) 歴史的事象の評価できる点</p>
<p>B(Bad) 歴史的事象の課題・問題点</p>	<p>Q(answer to Question) 本時の問いへの解答</p>

各国が置かれていた状況や思惑があり、戦争に向かったんだね。

国際連盟は戦争を阻止できなかったんだね。

授業後の生徒の振り返り

- ・英文のセリフによって国際情勢が端的に表されていたのが印象的だった。
- ・自分と友人の考えをすり合わせることで、新たな発見があった。
- ・グループで意見を出し合い、本時の問いへの解答をまとめることができた。